

除草剤

パワーガイザー[®]液剤

®=BASF社の登録商標

除草剤分類 **2**

有効成分

イマザモックス アンモニウム塩 …… 0.85%
水、界面活性剤等 …………… 99.15%
(ポリ(オキシエチレン)=アルキルエーテル)
(PRTR・1種) …………… 5.0%)

登録番号：第20023号

性 状：淡黄色澄明
水溶性液体

毒 性：普通物*

有効年限：5年

包 装：500ml×20本
3ℓ×6本



* 普通物：毒劇物に該当しないものを指している通称

■特長

- 雑草が出てから散布できるため、散布時期を逃すことなく、余裕を持って効率的そして効果的に散布作業が行えます。
- タニソバ、スカシタゴボウをはじめとする一年生広葉雑草の発生始期から2葉期までの処理で高い除草効果を示します。(効果発現から枯死まで、やや日数を要します)
- 有効成分であるイマザモックスアンモニウム塩は、一年生広葉雑草に対して低薬量で極めて高い活性を示します。
- 豆類作物が本剤を容易に代謝分解し解毒するため、一時的に黄化等が発生することがありますが、その後の生育には影響が認められません。

■適用雑草と使用方法

(2026年7月22日現在)

作物名	適 用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	イマザモックスアン モニウム塩を含む 農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
あずき	一年生 広葉 雑草	出芽直前～出芽揃 期(雑草発生始期 ～発生揃期)	200～ 300㎖ /10a	100 ℓ /10a	1 回	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	2回以内 (畦間処理は 1回以内)
		生育期(雑草発生 揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで				畦間雑草 茎葉散布	
いんげんまめ		出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～ 発生揃期)				雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	
		生育期(雑草発生 揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで				畦間雑草 茎葉散布	

作物名	適 用 雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	イマザモックスアン モニウム塩を含む 農薬の総使用回数	
			薬量	希釈水量				
だいず	一年生 雑草	出芽直前～3葉期 まで(雑草発生始期 ～2葉期)	200～ 300mℓ /10a	通常散布 50～ 100ℓ /10a 少量散布 25～ 50ℓ /10a	1回	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	2回以内 (畦間処理は 1回以内)	
				5.0～ 100ℓ /10a		無人航空 機による 散布		
		生育期(雑草発生 揃期～2葉期) 但し、収穫30日前まで		100ℓ /10a		畦間雑草 茎葉散布		
えだまめ	一年生 広葉 雑草	出芽直前～出芽揃 期(雑草発生始期 ～発生揃期)		通常散布 50～ 100ℓ /10a 少量散布 25～ 50ℓ /10a		1回	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	1回
				5.0～ 100ℓ /10a			無人航空 機による 散布	
さやいんげん		出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～ 発生揃期)	100ℓ /10a	2回 以内	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布		2回以内	
らっかせい	一年生 雑草	生育期(雑草発生 始期～2葉期) 但し、収穫30日前まで			1回			畦間雑草 茎葉散布
おうぎ	一年生 広葉 雑草	出芽揃期(雑草発生 始期～発生揃期)					300mℓ /10a	1年間に 1回
		生育期(雑草発生 揃期～2葉期) 但し、収穫60日前まで	畦間雑草 茎葉散布					
甘草		出芽前 (雑草発生始期)	300mℓ /10a	1年間に 1回	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	6回以内 (1年間に 2回以内 (畦間処理は 1回以内))		
	萌芽前～萌芽揃期 (雑草発生始期～ 発生揃期)	畦間雑草 茎葉散布						
	生育期(雑草発生 揃期～2葉期) 但し、収穫60日前まで							

⚠ 効果・薬害等の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は著しい低温下では凍結、分離することがあるので、散布液調製時には解凍を確認した後よく振ってから使用してください。
- 展着剤は加用しないでください。
- 有機リン系殺虫剤またはイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 無人航空機による散布に当たっては、次の注意を必ず守ってください。
 - 無人マルチローター(ドローン)にて使用してください。
 - 無人ヘリコプターの使用をさけてください。
 - 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施してください。
 - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行ってください。
 - 薬剤散布に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
 - 住宅地、水源池、飲料用水等に影響を与えないよう散布区域を選定し、周辺の諸物件に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
 - 周辺にだいたず及びえだまめ以外の作物が栽培されている場合は、飛散によって薬害が生じるおそれがあるので無人航空機による本剤の散布は行わないでください。
 - 高温など薬害を生じやすい条件下で使用する場合には、多めの希釈水量を用い、低濃度液を散布してください。
 - 散布に当たっては、飛散低減ノズルを使用してください。
- 本剤は雑草の発生始期から2葉期にかけて高い効果を示すが、雑草の生育が進むと除草効果が低下するので、使用時期を失しないように散布してください。
- 砂土では使用しないでください。
- 碎土や整地はていねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけ均一、厚めに行ってください。
- 土壌が極端に乾燥している場合には、効果が劣るおそれがあるので適湿な時に、均一に散布してください。
- 処理後に降雨が予想される時には使用をさけてください。
- 初生葉期以降の散布では一時的な薬害の発生することがあるが、その後の生育には影響しません。
- 散布に当たっては、他作物に飛散しないよう十分注意して使用してください。
- 畦間散布を行う場合、薬液が作物に飛散すると黄化症状の薬害を生じるおそれがあるので、作物に飛散しないように注意してください。
- 散布器具、容器の洗浄水および残りの薬液は河川等に流さず、空容器等は圃場に放置せず適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布液調製時および散布の際は、保護眼鏡、農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

保 管…直射日光をさけ、食品と区別して、低温な場所に密栓して保管してください。

さらに詳しい製品情報はこちらから

※QRコードを読み込む、
またはクリックしてください。

